

(仮称) 清原工業団地トランジットセンターについて

1 趣旨

(仮称) 清原工業団地トランジットセンター (以下、「清原TC」) について、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会の専門部会として設置した、有識者や軌道運送事業者、行政などで構成する「交通結節点等基盤整備部会」及び「LRTデザイン部会」において、専門的な検討を行ってきたところであり、施設計画等が取りまとまったことから、その内容について報告するもの

2 トランジットセンター (以下、「TC」) について

TCはLRTを軸とした円滑な交通ネットワークの形成において、鉄道やバス、地域内交通、自動車、自転車など多様な交通手段が結節し、多くの人が行き交う乗り継ぎの拠点施設であり、「ネットワーク型コンパクトシティ」の実現に向け重要な施設となる。

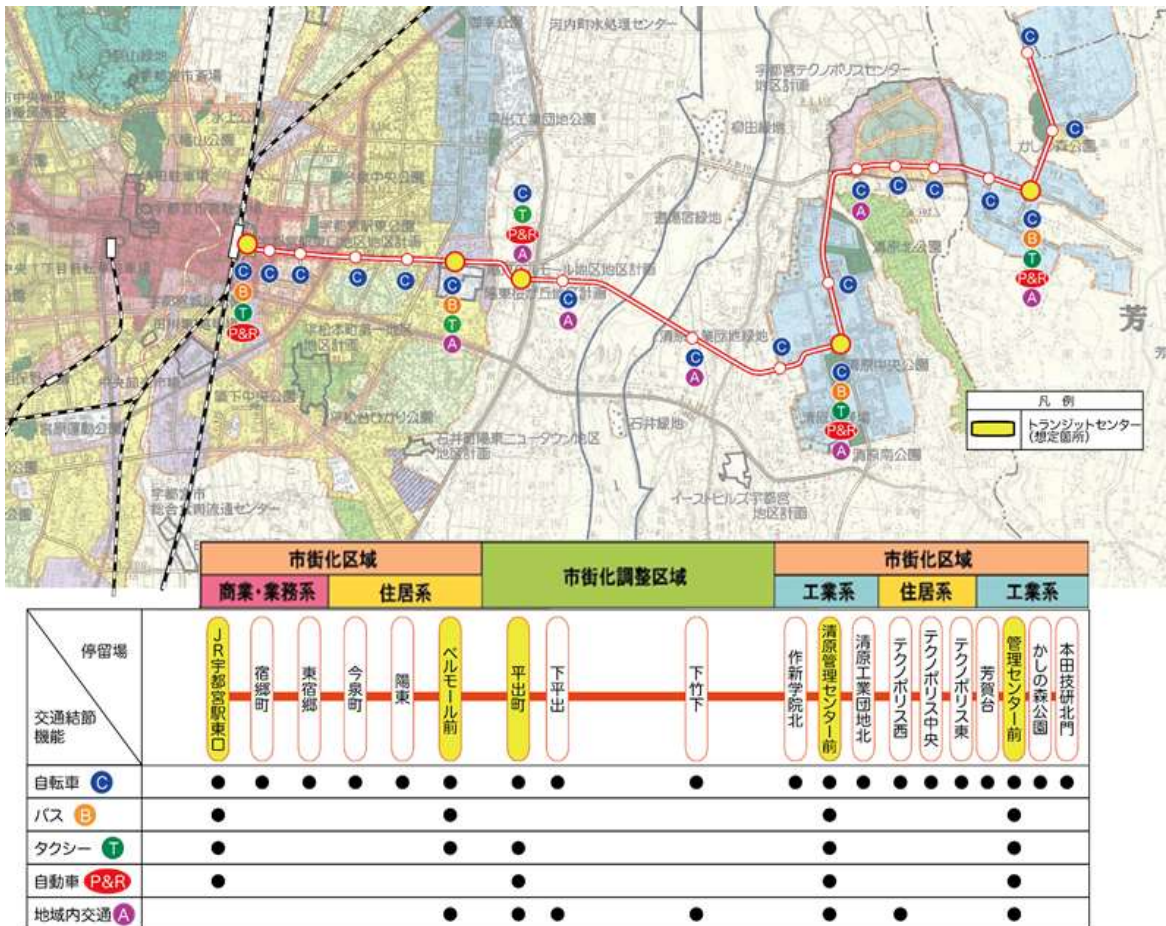


図 トランジットセンターの位置と停留場別の交通結節機能
(出典：芳賀・宇都宮東部地域公共交通網形成計画)

3 清原TCの施設計画について・・・(別紙1 別紙2参照)

清原TCの交通結節機能，施設配置，施設規模等については，「交通結節点等基盤整備部会」において，施設デザインについては，「LRTデザイン部会」において検討を行ってきたところである。

清原TCは，LRTと自転車・バス・タクシー・自動車・地域内交通との結節に加え，快適に待てるよう待合所やトイレを設け，更には情報発信機能や低炭素化の整備に向けた取組も行っている。

また，施設デザインについては，「風土を活かす景観を形成し魅力的な空間の創出」，「シンボルとなる車両を引き立てる配色・デザイン」を目指し，待合所の仕上げ材に地場産材である大谷石の活用することや，乗降場においてはLRT車両を引き立てる無彩色を用い，停留場との連続性を考慮したシンプルなデザインなどとしたところである。

4 今後の進め方・・・(別紙3参照)

今回提示した施設計画を基に，待合所・乗降場シェルター等の整備を進めていくこととするが，駐車場については，需要定着時などにおける将来的な完成形であることから，開業時においては暫定整備とし，開業後はその利用状況を見極めながら，完成形に向け段階的に整備を行うこととする。

今後，TC周辺においては，産業拠点の特性を活かした更なる産業振興などに繋がる取組を検討し，多くの人達に使って頂けるようなTCを目指していく。

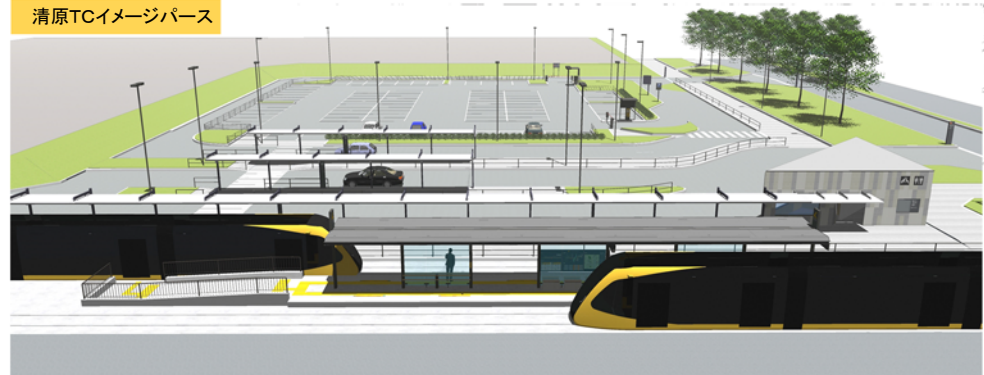
■ 施設配置の考え方

- ・ LRTやバス、地域内交通等の乗降場については、移動距離が短く、公共交通間の乗り継ぎがしやすい場所に配置
- ・ 乗り継ぎの際に、歩行者が雨天時でも濡れずに乗り換えができるよう、歩行者動線に配慮してシェルターを設置
- ・ 車両の動線については、バス・地域内交通等の公共交通と一般車の動線を完全に分離し、安全で円滑な交通を確保
- ・ 運行表示板については、スムーズな乗り換えや、待ち時間を快適に過ごせるよう、基幹となるLRTの停留場の近くに設置
- ・ 待合所については、運行頻度が低く、待ち時間を長く過ごすことが想定される地域内交通の乗降場近くに配置

■ 端末交通別施設規模

端末交通	施設規模	施設規模設定の考え方
バス	4バース	清原工業団地内の新設バス路線に対応
地域内交通	1バース	地域内交通に対応
自動車	約90台	需要予測や地元ニーズ、敷地形状等を総合的に勘案
タクシー	2バース	工業団地内企業への出張者等の利用を想定
自転車	約70台	清原台団地などの周辺住民の利用を想定

清原TCイメージパース

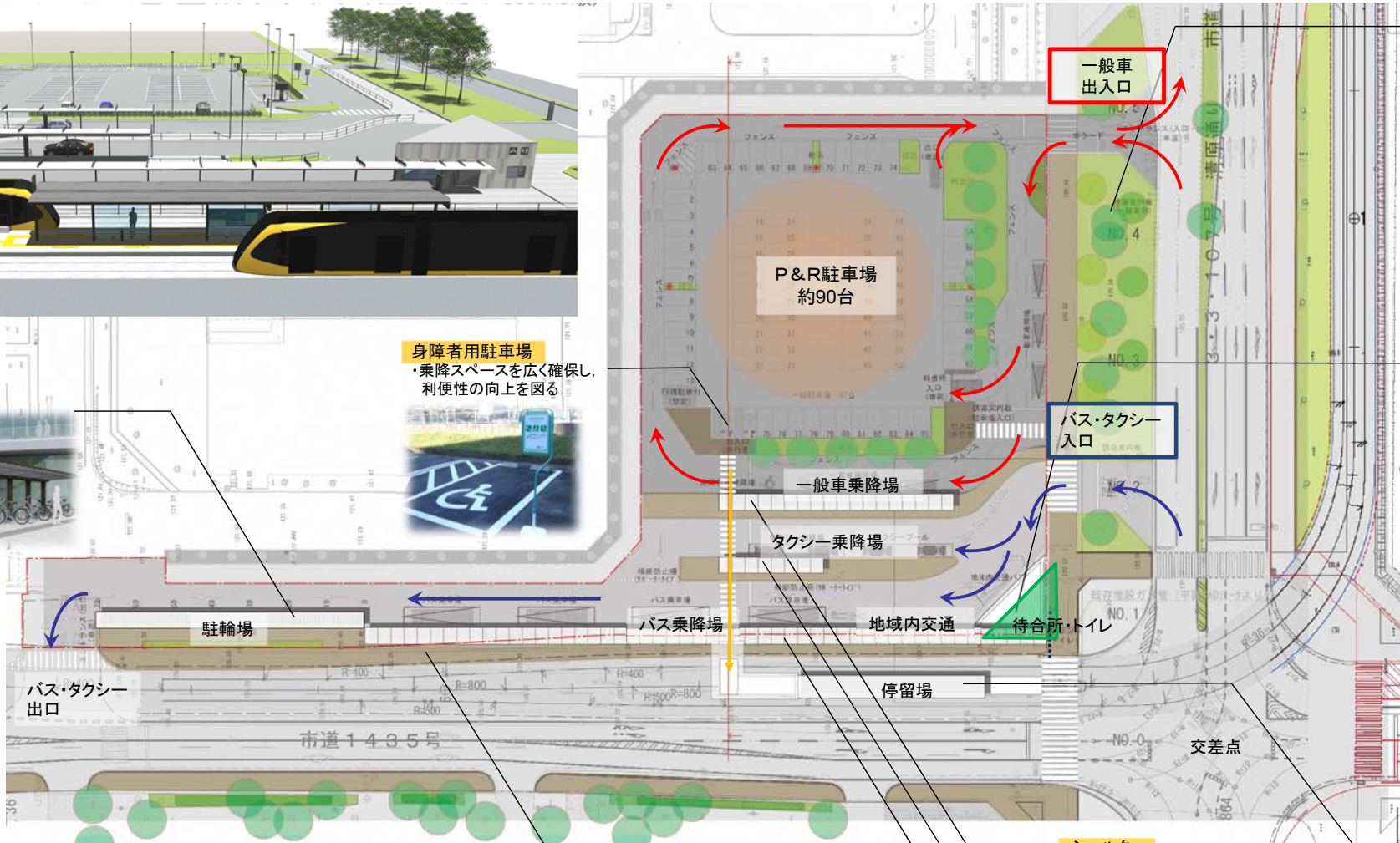


駐輪場



身障者用駐車場

- ・ 乗降スペースを広く確保し、利便性の向上を図る



ケヤキ(既存樹)



待合施設

- ・ 待合機能(椅子,空調,トイレなど)



舗装(歩道)

シェルター



停留場イメージ



- 利用者動線
- 公共交通動線
- 一般車動線

■ 待合所・トイレ

【デザイン方針】

地域のシンボルとなる施設デザインとし、仕上げ材には地場産材を活用する。

【デザイン案】

地域のシンボルとなるよう、建物を特徴的な三角形の形状とするとともに、全ての外壁面がTC利用者及びLRT利用者から見えることから、3面全ての外壁面に地場産材である大谷石を用いて、地域の風土を活かす景観形成を図る。



TC内から見た外観イメージ(待合所・トイレ)



LRT車窓(交差点付近)から見た外観イメージ(待合所・トイレ)

■ 駐車場・歩車道

【デザイン方針】

沿線住民がイベント等で活用可能なオープンスペースを設ける

【デザイン案】

駐車場をオープンスペースとして活用しやすいよう整形に配置し、駐車場及び歩道・車道については歩車道境界ブロックを用いて高さによる区別を行う。仕上げはコンクリート色と明度差が高いアスファルト舗装とし、明示性を確保する。

■ 乗降場シェルター(バス、タクシー乗り場、一般車), 駐輪場

【デザイン方針】

LRT車両を引き立てる無彩色を用い、停留場との連続性を考慮したシンプルなデザインとする。

【デザイン案】

柱、梁の色は、停留場上屋に合わせたダークグレー、屋根面はライトグレーとする。形状は水平・垂直を基調としたシンプルなものとする。



乗降場シェルターイメージ



駐輪場上屋イメージ



停留場イメージ

表 検討対象物と素材・色彩一覧

対象物	素材・色彩名称	色彩
待合所・トイレ (外壁)	大谷石 (スリット仕上げ)	
シェルター(柱・梁) 駐輪場(柱・梁) 横断防止柵	ダークグレー (塗装仕上げ)	
シェルター(屋根) 駐輪場(屋根)	ライトグレー (アルミ素材色)	

■ 外構

【デザイン方針】

緑が豊かな周辺の風土を活かす景観を形成し、魅力的な空間を創出する

【デザイン案】

各機能の境となる部分に低木などの緑を取り入れ、周辺の景観と調和を図るとともに、空間の機能を分けることにも緑を活用する。



配置イメージ

※詳細については、今後整備を進める中で変更となる可能性があります

